

学部優秀部門奨励金

(文学部 2020年3月卒業)

私の大学生活について

私は今年で、4年間学業に励んできた甲南大学を卒業することになりました。今回、卒業するにあたり、これまでの学生生活を振り返るとともに、今後の抱負について述べさせていただきます。

4年と聞くと長く感じるかもしれませんが、私にとってはすごく短く感じました。今、改めて学生生活を振り返ると、多くのことを学ぼうと毎日が必死だったため、時間が一瞬のように過ぎていったのだと考えられます。私は学生生活の多くを学業に費やしていました。私は中学生から歴史が大好きで、文学部歴史文化学科の授業一つ一つが面白く、できるだけ多くの授業を受講していました。高校生までは西洋史に興味があり、西洋史に比重を置いた授業の取り方をしようと考えていました。しかし、学友に誘われ、様々な授業を受けていくうちに、アジア史、日本史、地理学、民俗学などに興味を持つことができました。また、歴史だけではなく、第二外国語としてのフランス語や他学科の授業を受講することで様々な分野に興味を持つことができ、自分の学びの糧とすることができました。

様々な授業を受ける上で、ただ単位を取得するためだけではなく、自分の考えや視野を広げ、今後社会に出ても恥ずかしくないように一生懸命学ぶことを目的としていました。その成果を目に見える形で私に与えてくれたのが、甲南90・100周年記念栄誉特待生制度でした。最初はこの制度のことを知らず、ただひたすらに勉強し、真面目に授業を受けてきました。自分なりに頑張っているつもりではありましたが、他の人に認めてもらうことができこそ、自分は頑張ったということができると考えています。なので、特待生という形で私なりの頑張りを認めていただけたことは大変嬉しく、大変感謝しております。しかし、自分一人の力では特待生になることはできませんでした。私が特待生になれたのはこの4年間の学生生活の中で苦楽を共にしてくれた学友にも感謝したいです。これまで授業の予習復習やテスト勉強など、学友のおかげで楽しく、時には真剣に学ぶことができました。

学生生活の中で、資格取得にも力を入れました。4年間かけて取得を目指していた博物館学芸員の資格を今年取得することができました。学芸員資格を取得するために必要な授業では、他の人とチームになって行う授業が多くありました。その授業の中では、学芸員について学ぶだけでなく、チームワークの大切さやコミュニケーションの取り方など、これから社会で役立つことも学ぶことができました。この4年間の学生生活は歴史やその他の学問といった勉学だけでなく、これからの人生で必要なことを学ぶことができました。

学生生活を振り返ると、一言では言い表すことができないほど多くのことがありました。しかし、私の学生生活の大部分は学びであったということが出来ます。学生生活4年間で学んだことは、甲南大学の学生であったからこそ学ぶことができた部分が大いだと思います。この学びを今後活かしていきたいと考えております。

今後の抱負ですが、大学で学んだことを活かして、現在社会で活躍されている甲南大学卒業生の方々のようになることです。昨年参加させていただいた甲南スカラシップ倶楽部卒業記念パーティでは、様々な場で活躍されている卒業生の方々とお話する機会がありました。卒業生の方々を見て、私もこんなカッコいい大人になりたいと感じました。なので、これからの私の目標は、卒業生の方々のようになることです。そのために、大学で学んだことを基礎として、社会で活躍できるよう精進していきたいと考えております。